

平成 26 年度 宮島歴史民俗資料館連携企画展示報告

- 期 間：平成 26 年 11 月 11 日～12 月 14 日
- 会 場：宮島歴史民俗資料館
- テーマ：「知られざる宮島の魅力—豊国神社（千畳閣）—」



宮島歴史民俗資料館と共同して、まだあまり知られていない宮島の魅力を発掘し、情報発信する連携企画展示をおこないました。平成 26 年度は豊国神社本殿（国指定重要文化財、通称「千畳閣」）を取り上げ、戦国時代から現代まで、その歴史的・文化的価値を伝える関係資料約 40 点を展示しました。展示期間中、延べ 1,848 名の方が来場されました。

豊国神社本殿は、天正 15 年（1587）に豊臣秀吉によって「経堂」として建立発起された宮島随一の巨大な建物です。江戸時代には「大経堂」、畳を千畳敷けるほどの広さ（実際には約 850 枚）から「千畳閣」と呼ばれました。明治の神仏分離後には仏像を大願寺（宮島）に移し、秀吉を祀る豊国神社となりました。

展示の関連事業として 11 月 26 日には宮島学センター公開講座「千畳閣と宮島の人々」（講師：宮島学センター 大知徳子助教）を実施しました。講座の後半では会場を宮島歴史民俗資料館に移し、企画展の観覧とギャラリートークをおこないました。



ギャラリートークの解説は宮島歴史民俗資料館の船附洋子さん、秋山伸隆宮島学センター長、大知徳子助教が担当しました。ギャラリートークでは、豊臣秀吉が島内を見廻り、

塔岡に経堂の建立を決断したことがわかる「安国寺恵瓊書状」（天正 15 年 3 月 18 日、大願寺文書）や、江戸から明治時代に経堂の出店でも売られていた土産物「色楊枝」など、キャプションでは語りきれない内容を紹介しました。

